

豊かで 伸びやかに そしてたくましく



スカウト みやぎ

No.24

発行
日本ボーイスカウト宮城県連盟

発行日
平成22年2月22日



精励スカウト褒状授与式と表敬

宮城県連盟 総務委員長 高橋 忠

平成22年1月5日県庁において、富士・菊章を取得した精励スカウトに、村井連盟長から褒状が授与されました。

スカウト・父母・指導者・連盟関係者35名は、教育庁の担当者に案内され4階庁議室に緊張した面持ちで入室。村井連盟長が入室、一同起立し挨拶をかわしましたが、連盟長（知事）の歯切れのよい、さわやかなイメージの雰囲気、いくらか緊張がほぐれたようです。

千葉県連コミッションの司会で、芳賀理事長の挨拶。村井連盟長からスカウト一人ひとりに褒状が手渡されました。ここで、国際大会（フィリピン）に参加した佐々木君から連盟長へのお土産を差し上げたあと、連盟長から「今、褒状を渡しましたが、スカウトの中でも優秀でなければいざなうことが出来ないものです。今までの努力がこの結果につながりましたが、今後もスカウト技術やボランティア活動の向上を目指し取り組んでほしい。」と激励の言葉をいただきました。

そのあと、富士スカウトの泉第1団森淳一郎君がスカウトとして謝辞と抱負を述べました。

式後、その場で記念撮影との流れになるのですが、連盟長の粋な計らいで、知事室でスカウトは知事の椅子に座り、父母も連盟長と、それぞれに記念写真を取らせていただきました。

その後、表敬懇談に入るのですが、知事多忙のため生涯学習課長さんにおいでいただき、県コミの進行のもと、森君の抱負に始まり、指導者や父母の思いを語っていただき、課長さんからスカウト活動への動機等が質問され、スカウトはそれぞれの考えで答えました。課長さんから励ましの言葉をいただき、最後にリーダーから、お礼の言葉で、精励スカウトの表彰式と懇談会を締めくくりました。

これから飛翔するスカウトたちに“弥栄”

ー日本ボーイスカウト宮城県連盟長・表敬訪問ー

“村井連盟長励ましのことば”要旨

『本日はボーイスカウト宮城県連盟の皆さんにお会いすることができ、嬉しく思います。

日ごろ、県内のスカウト運動、ひいては青少年の健全育成にご尽力いただいていることに感謝申し上げます。またスカウトの皆さんにおいては、日々いろいろな場面において頑張っていると伺っており、頼もしく思います。

先ほどボーイスカウト・ベンチャースカウトの皆さんに褒状を授与いたしました。富士章と菊章はそれぞれのスカウトの中で、非常に優秀でなければいけません。これまでの活動に対し、皆さんが努力を続けてきたことがこのようなすばらしい結果につながったのだと思います。しかしこれがゴールではありません。今後も自分のスカウト技術やボランティア活動等における更なる向上を目指し、日々の活動に取り組んでほしいと思います。

保護者の皆さんに一言申し上げます。この度のお子さんの受賞、誠におめでとうございます。このように受賞できたのは、御家族の支えがあればこそだと思います。ぜひこれからもお子さんを見守り、励ましていただきますよう、お願いいたします。

終わりに、今後も県連役員、指導者、スカウト、保護者の皆さんが一丸となって意義のあるスカウト運動を展開し、宮城の青少年の健全育成を進めていただくことを期待し、連盟長としての励ましのことばといたします。』



富士章



菊章



第26回 APR スカウトジャンボリーに参加して

宮城県連盟石巻第6団 VS 隊 蟻坂 みどり

今回の派遣は私にとって2度目の海外派遣で、そして班長としての参加でした。私の最初の海外派遣は21WSJ のイギリスで、当時中学3年でした。その時の参加スカウトのほとんどが年上だったこともあって気楽な気持ちで参加していましたが、今回の派遣はそれから一転。私は高校2年となり班長として班をまとめるだけでなく、第26回 APR スカウトジャンボリーに唯一参加するに日本隊の中での班長、そして海外という環境での班長ということで、とてつもないプレッシャーを感じていました。

派遣団は12月25、26日に東京三鷹のスカウト会館で直前準備訓練を行い、2泊3日の訓練後27日早朝に成田空港に向けて出発し、9時の飛行機でフィリピンへ出発しました。

到着したマニラ空港では、50年前にフィリピンジャンボリーに参加し、今回リュニオンとして参加する方々とお会いました。その後夕方5時にキャンプ地に到着したもののすでに真っ暗で何も見えない状態の中での設営作業、そしてかなり傾斜のある土地でのテント生活を想像したとき、そしてその後の断水を体験した時今回の大会の過酷さを身に沁みて感じました。

翌日からは交流や開会式やモジュールがあり29日からのモジュールでは Go green といった植樹、Ropes course といったロッククライミング的なことなど色々なものに参加しましたが、過酷だと感じたのは Go green と Extreme Challenge の2つです。

詳細がよく分からないまま出掛けていった Go green はかなりの道のりを2往復した後かなりの大きさの苗を持って植樹へ、しかし土が非常に固くとても苦戦しました。

そして極めつけはExtreme Challenge です。文字通り「限界へ挑戦」しました。このモジュールは見た感じはアスレチックですが実際やってみると楽しいもののとてもハードで、途中挫折しかけたりと本当に大変でした。

その他、隊から選抜された7人で行ったラグナバイでの Water Sports などたくさんのモジュールに参加しました。

大晦日の31日にはグランドアリーナに参加者全員が集まり NEW YEAR PARTY が行われ、日本隊はソーラン節に参加者20000人もの人々の前で披露し、会場は大いに盛り上がりとても嬉しかったです。その後は夜遅くまで他国のスカウトたちと話をしたり、踊ったり、写真をとったりと充実した時間を過ごしました。

それからの時間の流れはあっという間で気づけば閉会式を迎え、マニラでのホテル泊、そして成田空港での解団式で9日間のフィリピン派遣が終わりました。

私は今回のフィリピン派遣ではフィリピンの人たちの温かさ、優しさ、人懐っこさを肌で感じました。私たちが作業をしているときでも小さい子たちはずっと日本のサイトから離れずじっと見守っているのです。作業後その子たちと一緒に遊んだときには本当に愛らしく思えました。また、私たちが重い竹を3人だけで運んでいるとスカウトたちがすかさず手伝いに来てくれたり、なかなか竹が切れなくて困っているとき何も言っていないのに通りかかったリーダーが切ってくれたり、ゲートが一度崩壊してしまってやり直さないといけなかったときもフィリピンのある参加隊のスカウト全員が協力してくれました。撤営のときなどには個人備品を女子スカウトが運んでいたときもフィリピンのスカウトが全部持って運んでくれたのです。

それらは私にとってとても感動的な出来事でした。そして同時に私はもし逆の立場だったら彼らのように外国のスカウトに対してあそこまで親切にできるかと考えた結果、あれほどのことは出来そうにないだろうという結論に達しました。改めて彼らの優しさと「よい思い出を作って欲しい」というホスト国としてのもてなしの心を感じました。

そして今回は21WSJ の時とは比較にならないほどコミュニケーションも出来たので自分自身充実した日々を送ることが出来ました。これも全て私をサポートしてくれた皆さんのおかげです。ありがとうございました。今回の経験を今後のスカウト活動に活かし、よりすばらしいスカウトになれるよう頑張っていきたいと思います。



組織拡張のための（入団・バッジ）調査結果

組織拡張委員会 新沼壽一

組織拡張委員会では、スカウト増員の具体的な手段を検討しておりますが、より効果的な方法を策定する為に各団の昨年の入団実績を参考にさせていただきたく、実績調査をお願いする事といたしました。また、今年度の目標でもある「友情バッジ有効活用」の実績も併せてお願いいたしました。

（１）調査対象期間・調査内容

- ・平成20年9月～平成21年8月の1年間
- ・入団したきっかけの調査
- ・各団友情バッジの利用状況

（２）調査結果 ①回答状況

調査依頼団数	30団
回答団数	25団
回答率	83.3%
入団スカウト数	94名

②回答内容（入団スカウト94名のきっかけ 複数回答103件）

	BVS	CS	BS	小計	割合
スカウト・父母の紹介	29	19	4	52	50.5%
区民祭り等のイベント	13	5	1	19	18.4%
ホームページ	8	6	4	18	17.5%
募集チラシ等の紙媒体	7	5	1	13	12.8%
不明	0	1	0	1	1.0%
小計	57	36	10	103	100%
割合	55.3%	35.0%	9.7%		100%

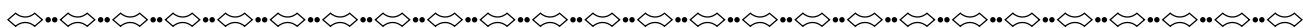
③友情バッジ利用状況

現在まで計36個が利用されていた。

《内容》1. 友情バッジを活用していた（7ヶ団）2. 友情バッジを渡さなかった（9ヶ団）3. 友情バッジを知らなかった（4ヶ団）4. 友情バッジについて回答なし（5ヶ団）

入団の「きっかけ」はボーイスカウト関係者の声かけによるものが多く、区民祭り等のイベント・ホームページが次いでおり一部地区では募集チラシの効果があったとしている。

友情バッジはその利用頻度は低い。大いに活用している団はあるものの、21年度その利用を目指したものの、多くの団が利用していなかった。



加盟員拡大について

仙台地区事務長 浅沼 勝

この加盟員拡大については、日本連盟活動の一環として、宮城・山口・大分の3県で実施しているもので、平成21年9月の理事会で仙台地区が手を挙げてこの取り組みに参加することになりました。

その後、臨時の地区委員会を含めてこれまで6回の会議を持ち、つい最近では平成22年1月23日（土）仙台市戦災復興記念館において、日連の事務局次長の小林さんに、スカウト運動理解促進研修会と題して1時間半の講演をお願いしました。

- ① スカウト運動、その目的は？、対象者は？、なぜ運動するの？
- ② 隊活動、なぜ教育活動？、リーダーは誰？、どうすれば充実する？
- ③ 団運営、団の仕組みは？どんな役割？どうすれば充実する？
- ④ あきらめない 理想像を描こう！、仕事を分担しよう！、達成感を味わおう！

この様な次第に従って、話されました。

また、小山地区コミからは具体的な取り組みについてと題した資料の配布がありこれについては後日説明会を持ち、各団の皆様と話し合っていく予定です。



迫第1団・宮城県民会議より表彰

迫第1団ボーイ隊隊長 高橋 孝規

平成21年度の『青少年健全育成みやぎ県民のつどい』が11月5日、仙台市のイズミティ21で開かれ、席上、ボーイスカウト迫第1団が、『青少年健全育成功労者』の団体の部で青少年のための宮城県民会議会長から表彰を受けました。

当団は、ボーイスカウト活動のなかで、積極的な社会参加や多くのボランティア活動の取り組みを通して、健やかな子どもたちの育成に貢献したというもので、当日は須藤英一副団委員長が出席し受賞しました。



石巻地区合同スノーキャンプ開催

石巻地区広報副委員長 榛澤達夫

1月23～24日岩手県西和賀町のさそう館に於いて石巻6団2団涌谷1団（40名が参加）で各団の交換会やプログラムのわら人形作り等を行いました。

ぞう班 佐藤芳哉 石巻第6団ボーイ隊

ぼくは、スノーキャンプで色々体験しました。一番心に残ったのは、わら人形作りです。なぜかという、人形作りは楽しかったし、なにより自分でうまく作れたのが良かったです。

二番目の思い出は雪上大運動会です。理由は楽しかったし、それに4位をとれたからです。三番の思い出は、なべコンテストです。

理由は楽しかったし、班のきずなが深めたと思うからです。

ぼくにとってスノーキャンプは、一生の中で思い出したりすることが簡単にできると思います。



クマ班 木村利輝 石巻第6団ボーイ隊

テストで十位以内でなければダメだったこのキャンプ、班員が海司しかこれられないということで、今回は大目にみてもらい、いけることになった。

スノーキャンプは、いつもの野営のキャンプではない。

さて、思い出だが、本当に心に残っているものは二つある。

一つは陣地作りだ。

雪合戦で使う自分の陣地で、本気になって2団の規臣君とほりまくった！最強の陣地だ。

この陣地のおかげで、四勝一敗という好成績だった。

二つ目は、顔に落書き遊びだ。この遊びは腹が痛くなるほど楽しいし、盛り上がる。チャンピオン（とてもすごい落書きをされた）は諄生君だ。ジャンケンで3連敗もしてすごいグロテスクになった。

こんな楽しいキャンプに参加できたこの幸運を神様に感謝し、毎日の勉強をがんばりたいと思う。

くま班 武山海司 石巻第6団ボーイ隊

ぼくは初めてのスノーキャンプに出席しました。スノーキャンプで楽しかったことは、雪上大運動会です。雪上大運動会では、旗取りが楽しかったです。とりでを作っていたらものすごいようさいができました。その旗取りでは、4勝1敗で勝ちました。とても嬉しかったです。

つらいこともありましたが、たとえば、雪上大運動会では、はんの人数がすくなかったことです。でも2団の上はんが、いっしょだったの、雪上大運動会では1位をとりました。

そのほかにも楽しいことやつらいことがあります。

来年もスノーキャンプではまた1位をとりたいです。



15NJ情報

テーマ

世界に向かってでっかく羽ばたけ！

大会の目的

15NJに参加した青少年たちが、世界文化遺産登録を目指す霊峰富士山麓の豊かな自然の中でキャンプをすることにより相互理解と協調性を養い、また環境や健康の諸問題を考えることをとおして、持続可能な社会についてともに考え行動する機会とします。

大会の概要

会期：2010年8月2日（月）～8日（日）

会場：静岡県富士宮市朝霧高原

参加者：中学生・高校生年代の加盟員を中心に



県連予定申し込み者数（09年11月30日現在）

ボーイスカウト・・・120名

ベンチャースカウト・・・22名

指導者・・・16名

派遣団要員・・・4名

大会本部要員・・・7名

参加申込日 3月31日 県連盟まで

野外力検定開催

主催：

アウトドアチャレンジ

県実行委員会

（子供会育成連合会

レクリエーション協会

キャンプ協会

宇宙少年団

ボーイスカウト

ガールスカウト）

主管：

ボーイスカウト日本連盟



手旗など12種目
「野外力」腕試し
仙台児童150人検定
子どもにも野外活動で必要な技術を楽しく学んでもらう「野外力検定」が24日、仙台市青葉区の宮城教育大付属小で開かれた。
ボーイスカウト県連盟など6団体でつくる「アウトドアチャレンジ県実行委員会」の主催で、仙台市約150人の小学生が参加した。子どもたちは手旗で自分の名前を伝えたり、袋に入った果物と同じ重さになるよう石を集めて量ったりする12種目の検定に挑戦した。
自分の感覚を頼りに10メートルの距離を当てる種目に挑んだ青葉区の北仙台小2年後藤三智さん（7）は「40センチくらい短くなった。当てるのが難しいけど楽しかった。あと5種目くらい挑戦したい」と話した。



手旗で自分の名前を伝える子どもたち

平成22年1月25日河北新報朝刊

どで開催される。

当日、ボーイスカウト日本連盟から事務局長吉田俊仁氏・事務局次長小林孝之助氏・教育本部副コミッショナー膳師功氏、NPO法人国際自然大学校副理事長桜井義維英氏、文部科学省青少年課大石幸司氏が、来仙されました。

ボーイスカウトからは、仙台地区を中心に指導者約20名が奉仕しました。

加盟員拡大につながるものと大いに期待します。

スカウトセミナー開催

2010年3月28日（日）

受付9：00～ 会場：塩釜公民館

申し込みは県連事務局へ3月19日まで

県連盟総会開催

2010年5月9日（日）

仙台地区担当

■ 発行 日本ボーイスカウト宮城県連盟

■ 編集 宮城県連盟広報委員会

委員長 柿沼富雄

委員 榛澤達夫 大沼茂雄

砂押名湖 大友和弥

〒985-0841

宮城県多賀城市鶴ヶ谷1丁目4番1号

宮城県多賀城分庁舎内

TEL 022-355-6265/FAX 022-325-6267

■ 印刷 株式会社小野寺印刷所